

P-27

ヒト小腸壁内リンパ管におけるヒアルロン酸受容体の発現

下田 浩, 高橋 良彰, 加藤 征治

大分医大・医・解剖学第一

【目的】これまで我々は、5'-nucleotidase (5'-Nase) 組織化学により種々の組織におけるリンパ管の構築を明らかにしてきた。本研究では、最近クローニングされたリンパ管内皮細胞のヒアルロン酸受容体 (LYVE-1) に対する免疫組織化学ならびに in situ hybridization (ISH) を用いて、ヒト小腸壁内リンパ管における LYVE-1 の発現について検討した。【方法】外科的に切除されたヒト小腸の一部を材料として用い、種々の組織試料を作製し、LYVE-1 mRNA に対する ISH、当教室で作製した抗 LYVE-1 ウサギ血清による免疫組織化学、5'-Nase 染色を行い、それらの反応産物の局在を比較検討した。【結果】腸管各層に分布する 5'-Nase 陽性リンパ管の内皮細胞に一致して、LYVE-1 mRNA および LYVE-1 の局在がみられた。【結論】リンパ管内皮における LYVE-1 の発現は組織間質液の吸収機構に対するリンパ管の積極的な関与を示唆している。LYVE-1 に対する組織化学的検出は組織内リンパ管の同定や細胞活動の評価に有用であると思われる。

P-28

Cd、Zn 投与ラットの肝・腎内 Zn 含有量の動態と MTmRNA 合成誘導の関連性

伊藤 敦子¹, 林 美千子¹, 伊藤 金次²東邦大・医・法医¹
東邦大・医・第2病理²

昨年度本学会において Cd 投与後のラット体内 Cd 蓄積量に伴う MTmRNA の合成誘導量の変動を報告した。今回、Zn による MTmRNA 合成の誘導様式を観察し、Cd 投与群と比較検討した。30mgZn/Kg を隔日 1 回経口投与し、1, 13, 26 回の各時点で肝、腎における MTmRNA 合成量と Zn、Cu 含有量の変動を観察した。Zn1 回投与では肝の MT1 は対照群の 5 倍、MT2 は 2 倍の誘導が観察され、13 回群では MT1 が 25 倍、MT2 が 13 倍程度に上昇したが 26 回群では減少傾向にあった。誘導比は MT1>MT2 でありこの差異は Cd 群より顕著で、Zn より Cd の方が MT2 をより多く誘導する傾向にあった。Cd、Zn ともある一定投与量で誘導量はピークに達し以後は減少する様式は同様であったが、Zn の場合は Cd と異なり組織内蓄積量との濃度依存性は認められなかった。Cd 群では 1 回投与ですでに肝、腎内 Cd 蓄積量は高く投与継続に伴い増加し、さらに Zn 含有量も有意の増加が認められ、Cd により誘導された ZnMT の増加によるものと報告した。今回、Zn 投与の各時点で肝、腎内での Zn の蓄積量は観察されなかった。Cd の場合、投与された Cd はほとんど全部 MT に結合するが、Zn は MT 以外に多種類の輸送蛋白があり、それらの輸送蛋白は MT よりはるかに高濃度に存在し、吸収や排泄の恒常性を保持していることが示唆された。